



学校だより 10月号

文京区立第一中学校 令和3年10月21日(木)

衆知を集める

校長 田島 佳子

「衆知」とは、多くの人の知識や知恵のことです。

松下幸之助の著書より「衆知を集めた全員経営—これは私が経営者として終始一貫心がけ、実行してきたことである。全員の知恵が経営の上により多く生かされれば生かされるほど、その会社は発展するといえる。私が衆知を集めるということを考えたのは、一つには、自分自身があまり学問、知識というものをもっていなかったから、いきおい何をするにも皆に相談し、皆の知恵を集めてやっていくことになった面もある。いわば必要に迫られてやったことだといえなくもない。しかし私は、いかに学問、知識があり、優れた手腕をもった人であっても、この“衆知を集める”ということは極めて大切だと考えている。というのは、いかに優れた人といえどもその知恵にはおのずと限りがある」。

コロナによる休校から始まった令和2年度から1年半が経ちました。されどまだ私たちはマスクをつけた生活をしています。教育活動にも制限がかかっています。ワクチン接種が進み、新規感染者数は減少していますが、まだまだ油断はできません。第6波も心配されています。この時期に学校だよりのタイトルとして「衆知を集める」を選んだ理由は単純です。実感したからです。一人の知識や知恵には限りがあります。私は校長として、コロナ禍でいくつもの判断に迫られました。誰も今まで経験したことのない状況への対応です。素早い決断、柔軟な対応、周りとの調和が求められました。この時、私は多くの人の意見に耳を傾け、知恵を頼りました。自分では全く思い当たらない意見やアイデアがありました。具体的なことを示唆する質問や見失ってはいけない本質論、分掌や学年、職種といった立場からの意見、そして生徒の声や保護者の思い等もありました。多くの考えを集めると混乱してまとまらないと思うかもしれませんが、それは違います。多くのピースが集まってパズルが完成するように全体が見えてきます。私は衆知に支えられました。

今、本校の昇降口には「希望のアーチ」が設置されています。これはコロナ禍でなかなか学校に来られない保護者が学校のために何かをしたいと企画してくれました。みんなの考え、思い、力が集まったものです。「コロナが終わったらやりたいこと」を短冊に書いて吊るします。

これからも皆の知識や知恵や思いが集まる場所としての「第一中学校」であり続けたいと願っています。

※ 松下幸之助：実業家でパナソニックを一代で築き上げた経営者。「経営の神様」とも呼ばれた。

5組 校外学習 秩父方面



10月19日(火)バスに乗るころは小雨が降っていました。秩父は寒かったです、雨には降られませんでした。往きに事故渋滞で30分ほど多く時間がかかってしまいましたが、秩父の銘仙館で絹織物について学び、実際に機織り機でコースターを作成しました。学習発表会で展示予定です。その後、長瀬方面に移動して昼食を食べました。数日前までは水量が足りずにライン下りはできなかったとのことでしたが、私たちは運がよく、親鼻橋から岩畳までの3kmを下ることができました。雄大な自然は心地よく、水の音、鳥の声に耳を澄ましました。水しぶきが上がる度に声もあがって楽しそうでした。

演劇鑑賞教室 2. 3年 5組

合唱コンクール 練習風景

本番は10月30日(土)



10月4日(月)に演劇鑑賞教室がありました。今年は宝生能楽堂で能を鑑賞しました。第三中学校と合同でした。能舞台や衣装、面についての説明を受け、簡単な体験の後、「船弁慶」を観ました。伝統文化に触れた貴重な時間でした。

10月18日(月)から合唱コンクールに向けた放課後の練習が始まりました。マスクをしたままの練習ですが、どの学年も自主的に練習をしています。

課題曲 1年 カリブ夢の旅 2年 時の旅人
3年 大地讃頌

自由曲 1-1 遠い日の歌 1-2 COSMOS
2-1 YELL 2-2 友よ北の空へ
3-1 あなたへ 3-2 友~旅立ちの時



10月9日(土)学校公開の午後にPTA、地域学校協働本部、おやじの会で「希望のアーチ」を設置しました。

ぜひ、学校にいらした時は、短冊に「コロナが終わったらやりたいこと」を記入して吊るして下さい。お待ちしております。